

花を使って華やかに

千葉県立流山高等学校 一年

井手平 いでひら 瑠華 るか

「八木南第一公園」。私の思い出の場所です。そこはいつでも友達や近所の人がおり賑わっていました。友人と遊んだり、公園で行われる行事を楽しんだり、たくさん思い出が詰まった大切な場所です。しかし春休みにその公園の前を通ると、人は殆どおらずただの広場へと変わり果てていました。考えてみれば、私たちが小学生のころと比べ、公園で遊ぶ子供たちが少ないことに気づきました。なぜ公園で遊ぶ子供たちが、利用する人がなくなつたのだろう。またあの頃の賑わいを取り戻すのにはどうすればよいのだろう。私はそう思いました。

考えられる理由として、一つ目は室内遊びの充実です。新型コロナウイルスの影響で外出自粛となり、様々な行事が中止、延期され、地域的活動が減ったことです。それによりゲームなどの自宅でできる遊びに子供だけでなく社会全体がシフトしていきました。二つ目は公園の安全性への懸念です。遊具の利用による事故がたびたび発生し、各地の公園から遊

具が撤去される事態となり、公園が子供たちにとって楽しいと思えない場所になつてしまったことも原因ではないかと考えられます。ですが、すべての公園に人がいないわけではありません。では、人がいない公園と、いる公園の違いはなんでしょうか。

人がいない公園は、住宅街にありボール遊びなどができない、日当たりが悪い、草が生い茂り整備されていないなど管理が行き届いていないことが挙げられます。反対に人がいる公園は、木の剪定や除草など管理が行き届いており、道路や住宅から適度な距離があると考えられます。中にはテニスコートや野球場まで設置されているなど「いくつかの魅力」があります。人が集まる公園にするために私ができることは何か考えました。

そのことを先生に話してみると、流山高校では毎年9月ごろに流山市にある「江戸川台7号公園」で、各専攻から農産物を持ち寄り、販売会を行っていると聞きました。また「生物活用専攻」では、定期的に柏市にある「あけぼの山農業公園」で花を用いて公園の活性化を行っているとのことでした。私はそれに興味を持ち、担当の先生に相談すると、あけぼの山農業公園での活動に参加させていただけることになりました。実際に参加してみて、活動を行っているとわからないことばかりでしたが、先輩たちと協力して作った「ハンギング

バスケット」は、今まで見てきた花の中でも一層美しく見え、同時に感動したのを覚えています。私が実際に作った「ハンギングバスケット」のある階段は、ウキウキとした気分で登ることができ、これをたくさんの人に見て、感じてもらいたいと思いました。私は花を使つての公園の活性化は「ただ綺麗な花を飾るだけ」と考えていましたが、専攻体験終了後、「綺麗で愛情を込めた花を飾りたい、そして公園や町、人の心をときめかせたい」と思うようになりました。今回の体験で私は「花が人に与える感動」を実感しました。この感動を今後の活動に活かしていきたいです。

「あの頃の賑わいを取り戻すにはどうすればよいか」という問いに対して以上のように考え、来年時は生物活用専攻に進み、地域活性化の基盤を作り、町づくりに貢献していきたいです。例えば本校の近隣で実際に行っている植栽活動です。この取り組みは地域の方々と協力して行われるため、自然と人が集まり、豊かな景観を作ること、地域交流にも貢献します。さらに、除草作業や水やりなどの継続した活動も必要のため、小中学生の課外授業などで参加いただければ、自然とのふれあい学習にもなるのではないのでしょうか。植栽という一つの活動だけでも、植物の成長を通じ、長く交流できる環境を作ることができます。

このように、人々が定期的に訪れる活動をすることで人が

いない公園を人がいる公園に変えることができます。公園の大きさや環境によってできる活動は変わり、また、その役割も異なるでしょう。自然を楽しむ公園、子供が遊ぶ公園、多目的な利用ができる複合的な公園など、役割を明確化することで、共通の利用目的をもつ人々が集まる公園になるのではないのでしょうか。

私はもう公園を走り回って遊ぶ年齢ではなくなりましたが、静かな公園でベンチに座って過ごす時間が大好きです。私の好きな公園、未来の子供たちが安心して遊ぶことのできる公園を残せるように、今、自分にできる活動を積極的に行っていきたいと思っています。

目指す目標「活気溢れる八木南第一公園」！